

認知症重度化予防介護教室「小平市認知症あんしん生活実践塾」

午頭 潤子・森山千賀子・西方 規恵*・瀧口 優**・上条百里奈***・
川崎久美子****・渡辺 羊子*****

活動実績の概要

(1) 事業（活動）の目的及び地域課題との関連

認知症の人を抱える家族介護者（ケアラー）を支える支援は、介護保険法はじめ各自治体サービスの整備が十分とは言えず、高齢者虐待や介護・看護離職者の割合は高く、深刻な課題である。

本活動は、認知症の重度化予防や認知症の症状改善に関する具体的な方法を家族介護者が得るために必要な認知症介護教室を地域包括支援センターと連携し開催した。本講座は認知症の症状改善を通し家族介護者の介護負担感の減少を目指すものである。

(2) 具体的な活動内容

1) 開催日：2023年6月20日、7月25日、8月29日、9月12日、10月10日、11月14日。
火曜日午後1時～3時30分 全6回開催。

講師：一般社団法人 日本自立支援介護・パワーリハ学会 顧問 竹内 孝仁氏、国際医療福祉大学大学院 准教授 小平 めぐみ氏

2) 初回は認知症重度化予防の基礎講義とし公開講座を実施。

会場：小平市立中央公民館。定員35名満席。

3) 2～6回は現在、認知症の介護をしているかたを対象とし、事例検討「認知症の重度化予

防に挑戦」とした。毎月、自身がケアをする事例を報告し、講師から自身に必要な認知症の症状を改善させる方法について学び実践する。5名の家族介護者が参加した。

4) 認知症の症状改善結果

初回講義時点（2023年7月）の認知症の症状合計数22に対し、症状消失15（68.18%）、ほとんど改善1（4.55%）、中等度改善1（4.55%）、一部改善0（0%）、変化なし3（13.54%）。改善率は症状消失、ほとんど改善を抽出し、72.73%であった。（掲載許可を得た4事例）

5) 特色的な取り組み

本講座では、家族介護者である参加者が安心して参加でき、参加後の生活ケアの実践のサポート体制を行えるよう2点の取り組みを実施した。

①講座中の介護（ケア）付き

家族介護者が安心して参加できるよう、同建物の別室にて講座中対象者（要介護者）をお預かりする「介護（ケア）付き」を実施。

②SWV（白梅・ウォーキング・ボランティア）

認知症の症状を改善することを目的に認知力の回復を目指す体調を整える介護（水分の摂取、低栄養の予防、体を動かす運動や散歩、便秘の予防の4つのケア）を個別の状況に応じて実践を促すが、実践の困難さを感じる家族介護者も少なくない。そこで、講師の指導のもと、対象者及び家族介護者から希望があるケースにはSWVが自宅を訪問し、状況の確認とともに散歩や水分摂取等を促す活動を実施。

①及び②のスタッフとして、白梅学園大学の3年生と、白梅学園大学・白梅学園短期大学の卒業生で介護福祉士、介護支援専門員、看護師資格を

*子ども学部 家族・地域支援学科（～2024年3月31日）

**白梅学園短期大学名誉教授

***嘱託研究員 合同会社 Levande 代表取締役社長 本学非常勤講師

****嘱託研究員 特別養護老人ホームせいけいえん医務課

*****客員研究員 東京純心大学

有する者が関わった。

その活動報告を、学生が「第36回日本高齢者大会 in 東京」分科会及び、「大学生による世代間交流活動報告発表会」にて発表した。

また、2021年度から実施している本講座において、研究結果を第31回 日本介護福祉学大会にて口頭発表を行った。(認知症の重度化予防教室の活用による認知症の人の症状の変化及び家族介護者の関わりや気持ちの変容の検証)

(3) 今後の地域課題解決に向けた取り組みや計画

本取り組みを通し、認知症の症状の改善や家族介護者の精神的負担の軽減など一定の効果が見られた。

2024年より認知症基本法が施行され、認知症の人やその家族が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができる地域づくりが急務であり、本学の社会貢献活動とし地域課題解決活動の継続は必須であると考えます。

ご協力頂きました皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。